

日本声楽発声学会

第 1 1 0 回 例会

令和元年（2019年） 1 1 月 2 4 日（日）

9：55 ～ 16：20（受付 9：30より）

東京藝術大学音楽学部

大講義室（5-109）・第1 ホール

（JR 上野駅公園口より徒歩10 分）

（お願い）

- ① 携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ② 録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。

（なお、本学会では記録用として録音録画はしますが、それ以外は個人のプライバシー保護のため、厳禁いたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。）

日本声楽発声学会 第110回例会 プログラム

総合司会 豊田 喜代美

開会挨拶 9:55~10:00

会長 川上 勝功

A 研究発表 10:00~11:30 (5-109 大講義室 予定)

司会 竹田 数章

1) 10:00~10:30

発表者：山田 実 Minoru YAMADA 声楽家

テーマ：吸気発声の効用

概要：声帯本来の機能は嚥下時の気管保護であり、声帯筋(甲状披裂筋)の収縮が数多く、無意識に繰り返されている。これに反し、声楽発声に於いては、声帯筋だけでなく声帯を伸展する輪状甲状筋などを故意に収縮させねばならない。発声指導は生徒の声を教師が聴覚のみによって判断しなければならないが、声帯の収縮筋、伸展筋、閉鎖筋それぞれを声楽発声に適合させるためには、吸気発声の訓練が効果的であるとの結果を得ている。

略歴：東京芸術大学卒業. ジュリアード音楽院, ティール大学, ユニオン神学校, コロンビア大学で研修. 博士(学芸). 桜美林大学名誉教授.

2) 10:35~11:05

発表者：林 いのり Inori HAYASHI 声楽家

テーマ：G. ヴェルディの歌劇における「朗唱」の記譜 - 歌劇『シモン・ボッカネグラ』(1881) プロローグおよび第1幕フィナーレの研究 -

概要：G. ヴェルディが活躍した19世紀半ば~20世紀初頭は、舞台装置や脚本の詩行形態など、オペラの現場と関わる分野の変化と共に、歌唱法においても変化が起こった時代である。本発表では、『シモン・ボッカネグラ』(1881)の一部を楽曲分析し、初演を務めたV. モレルの演奏に関する記録と照らし合わせる事で、モレルの演奏作法とヴェルディの音楽との関係について考察する。

略歴：東京芸術大学卒業. お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科博士後期課程1年在学中.

3) 11:10~11:40

発表者：豊田 喜代美 Kiyomi TOYODA 声楽家

テーマ：貴志康一(1909-1937) 作曲オーケストラ歌曲作品について

概要：オーケストラ歌曲はR. シュトラウス作品をはじめ世界的に多く知られている。邦人作曲のオーケストラ歌曲は多くない中で貴志康一は自ら作詞も手がけた歌曲(及び交響曲)をベルリンフィル他ドイツのオーケストラを指揮して発表し、当地で非常に高い評価を得た。1987年東京都交響楽団「日本人の作曲家シリーズ」第一回で演奏された貴志康一のオーケストラ歌曲を中心に発表する。

略歴：桐朋学園音大卒業. ケルン音大留学. 北陸先端科学技術大学院大学修了. 博士（知識科学）. 東京大学講師. 元沖縄県立芸術大学教授.

◇ 質疑応答 11:40 ~ 12:00

昼 食

B. 特別講演 13:00 ~ 15:00 (5-109 大講義室 予定)

司会 河合 孝夫

演題：中世典礼音楽の声楽アンサンブルについて

講師：夏山 美加恵 Mikae NATSUYAMA



発表概要

中世ヨーロッパの修道院や教会で歌われていたグレゴリオ聖歌などの典礼音楽の演奏において、先唱者としてソロを歌うのは能力の優れた歌手ではありますが、彼らは決してその歌声を披露したというのではなく、声で周りの歌手たちを導くという考え方でした。

Cantor(先唱者)の肩書のある人たちは口伝伝承という方法で歌い方を教えました。修道院における共同生活は生活習慣や考え方だけでなく、祈りの中で呼吸や声の響きを統一していったと考えられるということです。

本講演ではグレゴリオ聖歌や中世の時代の素朴なポリフォニーを歌いますが、『よく聴く』事を通して、その歌詞、旋律、音程の感覚、響き等を身体で感じ取り、呼吸や声にどのような影響が現れるかということを体験していただくことを目指します。また、当時の写本と現代譜を見比べてみます。当時使用されていた歴史的な記譜法による楽譜を歌うことで、時代を超えて当時の人々と同じ視点に立ち、その音楽をさらに実感できると講演者は考えております。

このような方法で歌唱法を追求することは、現代の声楽や合唱の歌唱のありかたにも大いにつながると考えております。

略歴

- ・古楽歌手
- ・エリザベト音楽大学宗教音楽科卒業。専攻科修了。故鈴木仁に声楽を師事。グレゴリオ聖歌、典礼学、オルガンを修得する。
- ・オランダのブラバント音楽院にて中世とルネサンス時代の古楽声楽アンサンブルの研修を行う。
- ・デン・ハーグ王立音楽院古楽科古楽声楽コースに入学。2001年同校修士課程を修了。

- ・第6回山梨古楽コンクール第三位入賞（一位無し）。
- ・オランダ国内外の多くの古楽アンサンブルと共演し、ユトレヒト、ブルージュ、ベルリン等の古楽祭他に多数参加。
- ・12年間に渡ってオランダのカトリック教会のカントルとして勤務。
- ・現在、ソロやアンサンブル歌手として中世からバロック時代の古楽声楽作品、さらに現代音楽にいたるまで幅広いレパートリーで演奏活動を行う傍ら、古楽声楽アンサンブルの指導にも積極的に取り組んでいる。
- ・ヴォーカルアンサンブル・カペラ所属。フォンスフローリス古楽院講師。

C. 現役声楽家の演奏とお話 15:20 ～ 16:20（第1ホール）

司会 齊藤 祐

テーマ：オーダーメイドの作曲家・モーツァルト

講師：臼木 あい Ai USUKI ソプラノ ピアノ：森 遥香 Haruka MORI



演奏曲

W.A.モーツァルト作曲

- ・ソプラノ歌手カタリーナ・カヴァリエーリ嬢へ《劇場支配人》KV486 より“若いあなた！”
- ・ソプラノ歌手 アロイージア・ランゲ嬢へ《劇場支配人》KV486 より“別れの時の鐘は鳴り”
- ・カストラート歌手 アダモ・ソルツィ氏へ《アルバのアスカーニョ》KV111 より“あなたの気高い姿から”
- ・ソプラノ歌手 ナンシー・ストラース嬢へ コンサートアリア KV505 “どうしてあなたを忘れられようか～恐れなくて、愛する人よ”

選曲の趣旨

音楽大学のオペラ実習では、まずはじめにモーツァルトの作品を勉強する事が当たり前、であり、私が留学していたザルツブルクのモーツァルテウムでは、ドイツリートを勉強するならモーツァルトから、というのが当たり前でした。我々声楽家にとって全ての基本ともいえるモーツァルトの作品は同時に、勉強すればする程、その難しさに悩まされもします。

モーツァルトを歌わない声楽家など存在しないのではないかと思います。万人が勉強し、演奏しているわけですが、モーツァルト自身は作曲時、歌手によって楽譜を変更したり改訂したり、又は歌手に当て書きすることを多く行なっていました。時代柄という事もありますが、モーツァルトのオーダーメイド作品達を見てみますと、その作品を歌った当時の歌手達の声質やキャラクター・得意な技巧などを窺い知ることができ、現代に生きる我々にとって大変興味深い資料となります。それに比べると、数多く現代作品が生まれている昨今、歌手の個々の特性に合わせたオーダーメイドの作品はどのくらいあるのでしょうか？

我々声楽家にとって最も大切なことは、自分の声に合った作品を歌うことです。依頼されたから…曲が好きだから…という理由で、声に合わない作品を歌い、発声の道標を見失ってしまうことは過去

私自身にもありましたが、最も悲劇なのは声そのものを壊してしまうことです。そのような悲劇を起こさないためにも、自分に合う曲とは何なのか、それを常に自問自答する必要があります。モーツァルトのオーダーメイド作品達を通じて、どの様な声と音楽に対して書かれたものなのかという事を少しでもご紹介できれば幸いです。

臼木 あい

プロフィール

東京芸術大学卒業。同大学院修士課程・博士後期課程修了。音楽博士号取得。安宅賞、松田トシ賞、三菱地所音楽賞を受賞。03年日本音楽コンクール第1位、松下賞及び聴衆賞も併せて受賞。二期会オペラ研修所マスタークラス修了時に最優秀賞・川崎静子賞を受賞。

オペラではこれまでに、日生劇場『夕鶴』つう、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『リア』コーディリア、北とぴあ国際音楽祭『騎士オルランド』アンジェーリカ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、びわ湖ホール／神奈川県民ホール『ラ・ボエーム』ムゼッタ、新国立劇場『紫苑物語』（世界初演）千草、同鑑賞教室『愛の妙薬』アディーナなどを演じる。また、芸大在学中に『芸大メサイア』のソロを務めたのをきっかけに、モーツァルト『レクイエム』『ダヴィデ・ペニテンテ』『ハ短調ミサ』、ブラームス『ドイツレクイエム』、フォーレ『レクイエム』、オルフ『カルミナブラーナ』など宗教音楽のソリストとしても活躍している。『NHK ニューイヤーオペラコンサート』など、テレビやラジオのメディアにも出演する他、東京オペラシティ『B→C』、フィリアホール『女神との出逢い』、ハクジュホール『リクライニングコンサート』などのリサイタルシリーズにも出演。音楽誌上でも好評を博す。明治安田生命クオリティオブライフより奨学金を得てザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学に留学。

これまでに伊藤京子、高丈二、佐々木典子、イングリット・マイヤー、ヴォルフガング・ホルツマイアーの各氏に師事。二期会及び日本演奏連盟会員。現在、国立音楽大学・上野学園大学非常勤講師。

閉会の挨拶

副会長 豊田 喜代美

■ 例会のご参加につきまして

- 正会員・学生会員は参加費不要です。 ※年会費納入をご確認お願いいたします。
※昼食弁当については下記要領にてお申込みください。

- 臨時会員は参加費 6,000 円を、下記の郵便振替口座に11 月 15日（金）までに納入ください。
大学院生以下 3,000 円 *当日、学生証をご提示ください。

- ・振込先：郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会
- ・振込の通信欄に『11月例会参加費』、所属、紹介者、住所、氏名、をご記入ください。
- ・当日、臨時会員の方は参加費納入確認のため、振込受領書または振込明細をご持参ください。
- ・当日の参加受付も可能です。※資料準備の都合上、事前のお申込みをお願いしております。

- 昼食弁当（1000円お茶付き）：ご希望の方は事前にお申込み下さい。

※事前お申込みのみ対応可能です。

受取方法：会員は11月15日（金）までに事務局へFAX, E-Mail, はがきでお申込み下さい。お電話でのお申込みはご遠慮ください。臨時会員は例会参加の『振込取扱票』の通信欄に『弁当希望』と明記してください。会員、臨時会員共に、当日、受付で1000円をお支払い頂き引換券をお受け取りください。その引換券を藝大美術部学部内レストラン『大浦食堂』に持参し、昼食弁当（お茶付き）とお引換え下さい。『大浦食堂』でお召し上がりになれます。当日ご欠席の場合は後日お振込みいただきます。

- お問合せ先：日本声楽発声学会事務局（佐々木 徹）

E-mail : info@jars-voice.org Tel/Fax 03-6804-0626

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 3-14-4

日本声楽発声学会 Web サイト <http://www.jars-voice.org/>

郵便振替口座 00170-0-119920 加入者名：日本声楽発声学会